

## 4 学年 学年総合「オリエンテーション」

### ～子どもの〇〇したいを意識したスタート～

まずは、昨年度でやったことを振り返りました。「やってみてどうだった?」「楽しかったのはなぜ?」と問いかけることで、自分と向き合い始めた子どもの姿を見ることができました。観光客のために活動したことで喜んでもらえたことを知り、自分たちが行った活動が人のためになったことを感じました。

その上で、子どもからのアンケートや今、やりたいことを聞いた。「ちらしをもう一度作りたい」「ガイドブックを作りたい」「外国人観光客のために、英語版のガイドブックも作りたい」など、子ども達からたくさんのやりたいことが出てきました。

### 江口が本時の総合を進めるにあたって意識したこと

今回、私が意識して行ったことは、「なぜ、そう思ったの?」「どうして、やりたいの?」「もう一度、同じことをやってみたいのはどうして?」という聞き返しです。

やりたくないという反応を示した子にも「どうして、やりたくないの?」と理由を聞きました。すると、「もう行ったことがあるから」と答えました。すると、その理由に周りの子が反応し、「行ったことがあっても、新しい発見があるのでは」と違う子が言ってくれたことで、やっぱり行ってみようかなとなりました。大事なことは、教師がうまくファシリテーションしてあげることです。今回、私は理由を聞くことに徹しました。そこで、周りの子ども達がつながって発言してくれたのです。これが、子どもとつくる授業の一場面かなと思います。

子どもの思考には、必ず理由があり、同じことをやりたいと言っても、理由は異なります。その部分を出すことで、〇〇さんは、こう考えているんだ。自分は、まだそこまでは考えていなかったなど、自分はこれからどうしようかと考えるきっかけになりました。

子どもからは、「目的もないのに行くのは、ちょっとなあ」という子どももいましたが、ほとんどの子は、とりあえず行ってみたいとなりました。

まずは、5月22日(水)、松本城に行くグループと市立博物館に行くグループに分かれて、気になること、詳しく知りたいこと、やってみたいことを見つけに行ってきます。

☆参観して下さった大畑先生から、このような振り返りをいただきました。☆

自分の考えを臆せず発表したり、「ああ〜!」と頷いたりしながら聞く姿に4年生すごい!と、まず感じました。意見がつながっているのもすごいです。

また、江口先生は、「それはどうして?」「どうして、そうすればいいと思ったの?」など、深く考えを探る問い直しをおおくされていました。そのため、子ども達は、もっと語りたい、聞いてみたいと思っているのだらうなと感じました。これは、大畑に最も足りない部分です。教師の中に答えが用意されているから省いているのだらう…と自己反省しました。今年は、待つ、問い返す、あえて失敗をしてみるなど、余裕をもって活動してみたいと思います。

自分を振り返って、新たにチャレンジしてみたいと感じていただけたことに感謝です。研修で学んできたことを少しでも先生方に還元できるように今年度授業公開をしていきたいと思っています。

## 6年生との連携の予感が・・・

6年生と4年生は、最初の「材」が同じです。6年生は、すでに市立博物館に行って、気になることが出てきているようです。

しかし、やりたいことが広がってくると困るのは、教員の数です。もし、「もう1回、〇〇に行きたい」と言われた時に対応がしにくくなり、せっかく子どものやりたいことから始まっても、環境の問題で断念しなくてはならない状況が生まれてしまいます。

そこで、今年度は総合の時間を同じ曜日に設定しているので、4年生の職員3人+山口先生、そして6年生の職員3名の計7名で動くことができます。また、専科の先生も空き時間になるので、サポートも期待できるかもしれません。

内容によっては、学校に残る組が出てくるので、そこを職員で分担しながら対応していくことになりそうです。また、先生同士でもその時間に「他のグループはどう？」などのコミュニケーションが必要になってきそうです。自然発生的な縦割りテーマ総合になりそうな予感がします。そうすることで、チューニングを行う必要感もかなり出てきそうですね。

ただ、一つ心配なのが調べ学習だけで終わってしまうことです。そうならないためにも、子どもの「問い」がつながるように伴走していく必要があります。調べ学習は、探究のサイクルが回っていないので探究的な学びではありません。そこは、共通理解でやっていきたいです。

例えば、松本城にある「火縄銃」火縄銃をきっかけにもっと仕組みを知りたい、自分で作ってみたいと感じる子ども。

松本城は、あくまでも学びのきっかけであって、松本城そのものを探究する必要はありません。もちろん、観光客に伝えたい、松本の人にもっと魅力を伝えたいという人は、詳しく調べたり、専門家に聞いたりすればいいと思います。松本城から派生した「問い」をもった子ども達を大切にしたいなと思っています。

みんなで意識していきましょう！！

## 5月1日(木)の授業設計研修から

今回の研修から 職員全員の共通理解として「教師主導の探究活動ではない」

まずは、子どもの「やりたい」「やってみたい」を大切にすること(子どもの思いからスタート)

次は、子どもの動きを見守りながら、必要な場面でサポートする。

(例えば、テーマから外れそうな場合、あなたが考えたいことは何だったの？何を明らかにしたいの？)

そして、一人ひとりの子どもに決定権があること

そのために伴走者である私たちは、環境設定(子どもが自己決定できるような場の設定)、教材研究(子ども達は、どんなことに引っかかりを持ち、どのようなことを悩むのか)、授業設計(どんな力をつけさせるのか、そのために何が必要か【人・もの・こと】)をしっかりと考える必要がある。